

課題名 針広混交林への誘導に向けた除伐方法(除伐Ⅱ類の活用)

機関名 宗谷森林管理署

所属 業務第二課 森林育成係長 畠 義博

1. 課題を取り上げた背景

国有林野では、「国民の森林」としての管理経営を實踐するため、公益的機能の維持増進、生物多様性の保全等を基本方針に掲げている。

また、そのための森林の取扱いとして、「国有林野の管理経営に関する基本計画」(平成21年12月16日)において、「天然更新等の活用、長伐期化、複層林化、小面積・モザイク的配置、針広混交林化」を推進することとしている。

しかし、これら方針にも関わらず、現段階において、未だ目的樹種偏重と考えられる施業を続けている。

このため、これまでの「除伐(主に目的樹種の生育を阻害する天然木の伐採)」から、針広混交林等多様な森林への誘導や搬出(利用)間伐に有効と考えられる「除伐Ⅱ類(目的樹種の本数調整伐採)」の具体的方法について検討したものである。

2. 取組みの経過

現行の「除伐」が針広混交林化等に及ぼす問題点を整理するとともに、今後、目指すべき森林へ誘導する観点等から、「除伐Ⅱ類」の実行方法を検討した。

また、当該方法の効果を調査・検証するため、管内のアカエゾマツ造林地(22と林小班。10年生1.4ha、14年生1.0ha)で除伐Ⅱ類を試行的に実施した。

3. 実行結果

今回の除伐Ⅱ類は、将来の間伐期において過密・中小径木主

体となることが想定される若齢林分(3×4仕様、2条植)において、4本保残、2本伐採の定型的な方法で実行したものであり、その概要は次表のとおりである。

	本数(ha当たり)				平均	
	伐採前	伐採	伐採後	伐採率	径級	樹高
10年生	1,576	488	1,088	31%	2.2cm	2.3m
14年生	1,052	301	751	29%	4.2	3.0

注:植栽本数各1,800本/ha。

4. 考察

(1) 若齢林分における植栽木等の生育空間を確保することによって、①広葉樹の進入、②植栽木の肥大成長が促進され、針広混交林への誘導、搬出(利用)間伐の推進に有効と考えられる。

(2) 定型的かつ刈払機による伐採(径級8cm程度)も可能なため、効率性やかかり木の減による安全確保が図られる。

(3) 存置木が小径であることから、「ヤツバキクイムシ」の増殖源となる危険性が軽減できるものと期待される。

なお、若齢林分における積極的な植栽木の伐採は、環境変化に伴う気象害等も危惧されるため、経過観察が必要と考えている。

「森林・林業再生プラン」において、施業の集約化(低コスト化)、搬出(利用)間伐への転換等を進めるとされている中で、国有林がその技術力、フィールドを活かしつつ、役割を果たすためには、これまでの山づくりを検証しながら、新たな取組みを行い、その結果について積極的に発信していく必要がある。

また、除伐Ⅱ類の早期実施は、道北地域の自然的・経済的条件、国有林が目指すべき森林等に応じた施業方法を見直すきっかけになると考えているが、引き続き、厳しい気象条件等地域特性を踏まえたコスト縮減策等の検討が喫緊の課題である。